

2015-16 年度カリキュラム報告

—アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—

大 竹 弘 子

1 はじめに

横浜にあるアメリカ・カナダ大学連合日本研究センターは、日本研究の専門家や日本関係の実務家などを目指す人々に、中上級レベルの日本語を集中的に指導する教育機関である。本センターでは、40 週間におよぶ年間コースと、7 週間の夏期コース、3 週間の漢文夏期集中コースの、3 種類の日本語プログラムを実施している。2015-16 年度の年間コース修了生は 53 名、それに続く 2016 年 6 月から 8 月の夏期コース修了生は 39 名、2016 年 6 月から 7 月の漢文コース修了生は 6 名であった(この年報の別項を参照)。以下に 2015-16 年度の、40 週間の年間コース実施内容を報告する。

2 年間コースの概観

2015 年 9 月 7 日から翌 2016 年 6 月 10 日までの 40 週間にわたって年間コースを実施した。本コースは 4 つの学期からなり、9 月開始から 10 月末の秋休みまでを第 1 学期、11 月から 12 月の冬休みまでを第 2 学期、翌新年 1 月から 3 月の春休みまでを第 3 学期、そして春休み明け以降コース終了までを第 4 学期とし、1～2 学期をまとめて前期と呼び、3～4 学期を後期と呼んでいる(次項の表参照)。

2015-2016 年度 40 週間の年間コース日程

週	10:00-11:50 午前クラス授業	13:20-15:00 午後クラス授業 水曜は午後のクラスなし										
1	オリエンテーション・試験・面談	オリエンテーション・面談など	↑									
2	文法復習 Japanese Grammar Review	総合運用 I Applied Japanese Skills I	↓									
3			1学期									
4			9/7-10/30									
5			8週間									
6			↓									
7	待遇表現											
8	Formal Expressions		↓									
9	秋休み 1 週間 10 月 31 日(土)~11 月 8 日(日)											
10	接続表現	総合運用 II Applied Japanese Skills II	↑									
11	Conjunctive Expressions		↓									
12	統合日本語 I IJ: Integrated Japanese Advanced Course I		2学期									
13			11/9-12/22									
14			7週間									
15			↓									
16			↓									
17-19	冬休み 3 週間 12 月 23 日(水)~1 月 12 日(火)											
20	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">統合</td> <td style="width:33%;">選択 A</td> <td style="width:33%;">選</td> </tr> <tr> <td>日本語 II</td> <td>Elective</td> <td>択</td> </tr> <tr> <td>IJ II</td> <td>Course A</td> <td>B</td> </tr> </table>	統合	選択 A	選	日本語 II	Elective	択	IJ II	Course A	B	総合運用 III Applied Japanese Skills III	↑
統合		選択 A	選									
日本語 II		Elective	択									
IJ II		Course A	B									
21		↓										
22		3学期										
23		1/13-3/11										
24		8週間										
25	↓											
26	↓											
27	↓											
28-29	春休み 2 週間 3 月 12 日(土)~3 月 27 日(日)											
30	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">統合</td> <td style="width:33%;">選</td> <td style="width:33%;">選</td> </tr> <tr> <td>日本語 III</td> <td>択</td> <td>択</td> </tr> <tr> <td>IJ III</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> </table>	統合	選	選	日本語 III	択	択	IJ III	A	B	プロジェクトワーク/ クラス授業/個別指導 Project Work/Class/ Directed Research	↑
統合		選	選									
日本語 III		択	択									
IJ III		A	B									
31		↓										
32	4学期											
33	3/28-6/10											
34	11 週間											
35	GW 休み 1 週間 4 月 29 日(金)~5 月 5 日(木)											
36	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:33%;">統合</td> <td style="width:33%;">選択 A</td> <td style="width:33%;">B</td> </tr> <tr> <td>日本語 III</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>IJ III</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	統合	選択 A	B	日本語 III			IJ III			プロジェクトワークなど	授業は実質
統合		選択 A	B									
日本語 III												
IJ III												
37	8週間											
38	↓											
39	試験5/30月、発表準備	試験5/30月、発表準備	↓									
40	発表6/7-8火水、面談6/10金	発表6/7-8火水、面談6/10金	↓									

午前と午後の授業の違いを端的にまとめると、午前は日本語の構造や知識に関する言語形式面を重視し、午後は聴読解や発話など言語運用の技能を伸ばす、という力点の置き方に差異がある。午前は「文法復習」「待遇表現」「接続表現」「統合日本語ⅠⅡⅢ」を必修科目とし、後期には選択必修科目「選択A」「選択B」を「統合日本語Ⅱ」「統合日本語Ⅲ」と並行して実施した。午後は「総合運用」が1学期から3学期まで続き、4学期の午後は「プロジェクトワーク／日本語N1クラス／個別指導（うち1つを選択）」を行った。各学期の教育内容を以下に記す。

3 第1学期の教育内容

1学期から3学期を通し、午前の授業は月曜から金曜までの5日間50分授業を2コマ（途中10分間休憩）行い、昼食をはさみ午後は水曜を除く4日間100分間授業を1コマ行った。

3-1 文法復習

入学直後の1学期午前では、まず中級学習者にとって理解が難しく誤りやすい文法事項を取り上げ、知識を整理し正確さを高めながら運用力を向上させた。本センター編集発行の『*An Introduction to Advanced Spoken Japanese*』（略称ASJ）あるいは本センターで作成した内部教材『*Japanese Grammar*』（略称JG）のどちらか一方を、各クラスの日本語習熟度に応じて使い分けた。また、敬語とその随伴行動の学習準備として「プレ待遇表現」（動画スキット全4回）を導入した。午前19日間38コマをこの指導にあてた。

3-2 待遇表現

文法復習に続く午前の授業では、円滑な人間関係を構築できるよう、敬語とその随伴行動、社会慣習、礼儀、挨拶などを含めた言語行動を取り上げた。主教材として本センター編集発行の『待遇表現』を用いた。この待遇表現の指導に午前10日間20コマをあてた。

3-3 総合運用Ⅰ

午後の授業「総合運用」は主として、読解、聴解、発話などの技能面に焦点をあて、文字通り総合的な日本語運用力の向上を目指した。第1学期は身近で日常的な話題を扱った「経験談」という単元から開始し、自然な話し方に慣れるとともに、既習の文法事項などを総合的に活用する機会を提供した。続いて新聞やニュースを教材とする社会性をおびた単元に進み、日本事情や時事的話題に関する語彙・表現の習得と運用力向上を促した。午後18日間×100分をあてた。

4 第2学期の教育内容

4-1 接続表現

接続詞に特に注目し、文と文の接続、段落や文章の組み立て方（複段落の作成）について指導した。教材として本センター開発の内部教材「接続表現」を用いた。午前9日間 18コマをこの指導にあてた。

4-2 統合日本語 I

一般的な中級段階の日本語から、より高度で専門的な日本語への橋渡しをするために、独自開発教材『統合日本語 *Integrated Japanese Advanced Course*』を用いた。各課は同一の話題をめぐる「文章編」と「会話編」からなり、「文章編」では読解練習とそこで扱われる文型・語彙・表現を学び、「会話編」では自然な話し言葉を状況に応じて使い分けられるよう指導した。2分冊の上巻1～3課を第2学期に、下巻4～5課を第3学期に扱った（5-1節「統合日本語 II」参照）。月曜から金曜の午前20日間 40コマを統合日本語 I の指導にあてた。このうち12/16水の午2時間をミニ発表会にあて「統合日本語 I」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。

4-3 総合運用 II

一般的な社会問題をめぐる生教材、つまり読物と関連ビデオ（例えば報道番組）などを読解・聴解し、話し合いを重ねることによって、類似した一般的な話題についても日本人と話し合える能力獲得を目指した。この総合運用 II では、話題シラバスのモジュール型教材群「文化の発信」「ものづくり」「外国人と国籍」「地球環境」「働く女性」「教育制度」「差別と人権」「現代の若者たち」の中から学生の興味や関心あるいは必要性に応じて教材を選び、各クラスの理解度に合わせて授業進度を調整した。午後20日間×100分を総合運用 II の学習指導にあてた。

5 第3学期の教育内容

冬休みが明けた新年の1月から第3学期が始まる。3学期から、各学生の専門・興味・関心・必要性に応じた選択授業が増える。必ず履修すべき授業時間数はコース前半と同じく、午前50分授業2コマ5日間、午後は水曜以外100分授業4日間で変わらない。午前は、水曜と木曜に統合日本語 II、火曜と金曜に選択 A、月曜に選択 B を配し、午後4日間（水曜以外）は総合運用 III を実施した。また水曜午後と木曜放課後に随意科目の選択 C を設けた。

5-1 統合日本語Ⅱ

3学期に全学生が共通の教材で学ぶ授業はこの「統合日本語Ⅱ」だけである。週2日、水曜と木曜の午前2コマずつ計4コマ「統合日本語Ⅱ」を実施した。3学期最終週の授業2日間（3/9水と3/10木）をミニ発表会にあて「統合日本語Ⅱ」で学んだ知識や技能を整理する機会とした。3学期の水曜と木曜の午前17日間34コマをあてた。

5-2 選択A

3～4学期の午前週2回（火曜と金曜）各学生は、自己の専門領域に関連するコースを1つ選び、将来の学術研究や専門実務に資する言語面の能力育成に取り組んだ。学生には3～4学期を通じて同じコースを継続履修するよう奨励した。例年、コース選択に迷う学生が多々いるので、「選択Aコースお試しクラス」と称して2学期の午後1日（12/1火曜）を利用して体験受講の機会を設けた。本年度の開設コースは「文化人類学」「政治経済」「美術史」「文学」「歴史」「法律」の6つで、火曜と金曜の午前に3学期17日34コマ、4学期に16日間32コマをあてた。

5-2-1 文化人類学

3学期は「フィールドワークと若者論」「食とグローバル化」少数民族・ジェンダー」等を主要なテーマに設定し、学生の専門に応じた読み物を教材とした。ミニフィールドワーク、校外学習も行った。4学期は各学生が自己のテーマにそった素材を提供し話し合いを進めた。

5-2-2 政治経済

3学期は日本の「政治・経済」に関する記事や文献が理解できるよう、政治学や経済学の一般向け入門書を教材とし、基本的な知識と語彙を充実させた。4学期は学生の希望に応じ、「日中関係」「日韓関係」「アベノミクス」「企業分析」などの話題を取り上げた。また、3学期に国会・日銀見学を実施し、4学期に「日本における起業」「東日本大震災の復興状況」というテーマで学外講師2名にそれぞれ話してもらった。

5-2-3 美術史

明治時代に形成された「日本美術史」という概念をまずおさえた上で、美術史特有の専門用語・概念、作品分析、イメージの読み解きなどを行った。また、各学生の研究テーマに関する論文を学生自身が選び、それをもとに議論した。「日本美術誕生」「身辺図像学」「視線のポリティクス」「琳派」「浮世絵」「見立て」「文字絵・遊び絵」「ジャポニスム」「岡倉天心と明治の文化行政」「アヴァンギャルド」「現代女性アーティスト」「トランスポリティクス」「女性の美意識・男性の美意識」「セクシャリティ表現とジェンダ

一) 「韓流文化」「同人誌」「ゆるキャラとブランド化」などのテーマを扱い、美術館見学、映画・演劇鑑賞を行った。

5-2-4 文学

明治から現代までの短編小説および関連する評論を取り上げ、様々な観点から作品を分析し、話し合いを行った。おおむね2～3回で1作品を読んだ。4学期は明治期の作品を中心とするクラス、現代作品を中心とするクラスを設けた。

5-2-5 歴史

日本語で歴史研究を進めていくための基礎訓練を積み重ね、語彙・表現の拡充を図った。3学期は学生の興味・関心・必要性に応じて、専門書および一次史料を素材とする読解練習を行った。4学期は各学生の個別テーマに関する論文の読解と話し合いなどを実施した。

5-2-6 法律

日本の法律全般、特に憲法、民法、刑法、国際法、知財法等について、その基本的内容を判例も用いながら指導し、条文・判例を自力で読解できる技能を育成した。また、日本大学法学部大学院のゼミ聴講、裁判所・検察庁見学等の活動を授業と結び付ける形で行った。

5-3 選択B

選択Bでは日本語力の増強あるいは周辺分野の指導のために「アカデミックスピーキングI」「ビジネス日本語I」「リスニングI」「リーディング」の4コースを開講した。月曜日の午前8日間16コマをあてた。

5-3-1 アカデミックスピーキングI

大学院での演習場面を想定し、発話力伸張の訓練を行った。具体的には、発表者、司会者、参加者の役割を順次担当しつつ、専門的な分野で議論を深めるスキルの向上を目指した。発表者は要旨と論点を事前に準備し当日資料を配付した。

5-3-2 ビジネス日本語I

就職活動を経て新社会人として働く場で遭遇する状況を設定し、役割練習を積み重ねた。さらに模擬就職面接を行い事例に即した解説を加えながら実践指導をした(5-5-3節「ビジネス」参照)。

5-3-3 リスニング I

2分程度のニュースや情報番組の精聴練習を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを共同再生した。

5-3-4 リーディング

精読の練習として「日本人論」などに関する評論文を素材に用いて論旨の展開を読み取る訓練を積んだ。

5-4 総合運用Ⅲ

3学期の午後は「現代史」「大衆文化」「ビジネス・社会」のうち1コースを選択する。どれも、読物を理解したりビデオを視聴したり、さらにその話題について討論をするなどの諸活動が盛り込まれている。午後25日間×100分を総合Ⅲの学習指導にあてた。

5-4-1 現代史

ムービーフィルムが残されている1900年前後からの日本の歴史を、「戦前の日本1900-45」「敗戦と復興1945-55」「高度成長1955-70」「現代の日本1970-95」の4期に分け、ビデオと読み物で概観した。また、クラスごとに学生が興味を持つ話題を取り上げた。

5-4-2 大衆文化

広い意味での日本の“大衆文化”に関して日本人と話せるようになることを目標とした。「CM」「マンガと教育」「映画とオタク」「言葉と音楽」というテーマで資料を読み、話し合った。また、コース最後には、「これって文化」というテーマで学生各自が発表した。

5-4-3 ビジネス・社会

バブル経済の前後における企業や政府、さらに社会や人々の暮らしの変化を、戦後史にも触れながら追っていった。「バブル前後」「創業者」「通産省と大蔵省」「平成不況」「雇用制度」「系列」「マネーゲーム」「大震災後」などの話題を取り上げた。

5-5 選択C

3～4学期の随意選択科目として「文語文法」「漢文」「ビジネス」の3コースを開設した。このうち「ビジネス」は外部から招いた専門家が指導に当たった。

5-5-1 文語文法

文語文法の用語や歴史的仮名遣いから導入し、動詞・形容詞・助動詞の指導に進み、コ

ース半ばからは文語作品の読解も並行して行った。月曜 15 時 10 分～16 時 50 分に開講した。

5-5-2 漢文

日本人が書いた漢文や漢文体の素材を取り上げ、読み下しと解釈の練習を行った。まず漢文の基礎構文をおさえ、それを応用して短い文章を読んだ。水曜 13 時 20 分～15 時 00 分に開講した。

5-5-3 ビジネス

「日本の産業と金融」を主題に、新聞や雑誌の記事を素材として、ビジネス界の実情にも触れながら、日本経済の現在に至る経緯を紹介し、今後の展望と課題について講義した。選択 B「ビジネス日本語」と連携する形で、模擬就職面接を実施した。毎週木曜の 15 時 15 分～16 時 15 分に、神奈川経済同友会の湧井敏雄氏が指導に当たった(5-3-2 節を参照)。

6 第4学期の教育内容

プログラム最後の4学期の午前は、月曜の「選択 B」が4学期の独立したコースとなり、火曜と金曜に「選択 A」が、水曜と木曜に「統合日本語Ⅲ」が3学期から継続する。

また午後は1～3学期を通じて全学生が「総合運用」というクラス授業で学習を進めた。4学期の午後は「日本語 N1 クラス」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つの学習形態を選択し学習を進めた。

6-1 統合日本語Ⅲ

4学期の水曜と木曜の2日間は、日本語のおもに形式面の補強・拡充・総仕上げを目指した。標準的なクラスでは「対談・インタビュー」「評論」「論説」「論文」などの読み物素材を扱いながら、内容に関連した発話活動などを通じて、既習事項を総ざらいし日本語の知識をより確実なものにするとともに、上級日本語話者が知っておくべき事項の欠落箇所を補うなどした。なお各クラスとも学生の到達度、興味、要望に応じて各種の教材を選択・補足しながら活発な授業運営を目指した。16日間32コマをあてた。また、全クラスを通じ、センター終了後の社会活動を円滑に行うための技能の一環として、改まった形の「礼状」を書く活動を行った。

6-2 選択 B

4学期の月曜日に「リスニングⅡ」「ビジネス日本語Ⅱ」「ライティング」「日本文化論」「現代小説」の5コースを開講した。なお3学期と4学期の選択 B はそれぞれ独立したも

のなので、例えば、聞くことが苦手な学生は3学期に「リスニングⅠ」を履修し4学期にも「リスニングⅡ」を履修して聴解力を集中的に強化することもできるし、あるいは3学期に「スピーキングⅠ」を4学期に「ライティング」を履修して総合力の増進を目指すこともできる。9日間18コマをあてた。

6-2-1 リスニングⅡ

2分程度のニュースや情報番組の精聴を積み重ねた。正確に再生できるまで繰り返し聞き直し、クラス全体でスクリプトを共同再生した。また、番組の一部を短く取り出して聞かせ、その部分を各自で書き取るディクテーション練習も行った。

6-2-2 ビジネス日本語Ⅱ

日本での就職を希望する学生を対象とし、市販の教科書を用いて、ビジネス場面における慣用表現を学習した。また、各自興味がある企業を一社選び、①その企業の紹介、②SWOT分析（経営戦略を検討するための手法）、③問題点の指摘とその改善方法の提案、というテーマで発表、全体で議論をし、プレゼンテーションとディスカッションの技術習得を目指した。

6-2-3 ライティング

随筆から小論文まで、目的に合った幅広い文章表現力の習得を目的とした。毎週、宿題として各種の文章を書き、授業ではそれを全員で検討・批判しあい、日本語らしい文章の書き方と推敲の技術について考察した。

6-2-4 日本文化論

青木保著『日本文化論の変容』を素材とし、各学生が担当箇所を分担した。担当者は事前にレジメを作成し、発表と話し合いを行った。本文で著者が引用した文献を追加資料として配付したり、本文内容の理解不十分な点を確認した。

6-2-5 現代小説

現代作家による短編小説を毎週、あるいは2週間で1作品ずつ取り上げた。授業では予習を踏まえて学生間の議論を促し、作品の「読み」を相互に深めあった。教材として、村上春樹、向田邦子、宮部みゆき、村上龍、川上弘美、綿谷りさ、筒井康隆、江戸川乱歩などの短編を扱った。

6-3 4学期午後

4学期の午後は「日本語 N1 クラス授業」「プロジェクトワーク」「個別指導」のうち1つ

の学習形態を選択して学習を進めた。

6-3-1 日本語 N1 クラス

日本語能力試験 N1 (旧 1 級) レベルの高度な上級文型の習得を目指して、100 分のクラス授業を週 2 回、計 16 回行った。市販の問題集を使用して文型の知識増強を図り、また、読解、聴解を含めて模擬試験形式の練習も行った。

6-3-2 プロジェクトワーク

このプロジェクトワークでは、各学生が自己の専門や興味ある分野の主題を選び、その内容に比較的詳しい教員から毎週 50 分間個別の助言を受けながら、実地の調査研究や文献の読解などを行った。

6-3-3 個別指導

クラス授業では対応できない、日本語に関する特定の需要を満たすためのコースである。学生が主体的に目標を設定し学習計画を立て、教員から個別の助言を受けながら各自が必要とする課題に取り組んだ。

7 通年で実施した学習指導と行事など

40 週間にわたるプログラム期間中、教室における通常の授業に加えて、日本語の習得を促す数多くの機会を織り込んだ。以下にその代表的な活動を紹介する。

7-1 評価と個人面談

本プログラムでの学習成果を測定するため、入学直後と卒業間際に実力試験を実施した。内容は、読解と漢字の筆記試験、テープによる聴き取り試験、面接形式での発話テストを、入学・卒業時に共通して実施し、入学時にのみ文法と作文のテストを加えた。

試験結果をもとに 1 学期のクラス (午前・午後各 8 組) を編成した。午前のクラス担任教師は、コース開始に先立ち、午前クラスで受け持つ各学生と個別に面談し、試験の結果を踏まえ 40 週にわたる学習の指針などを助言した。1 学期末にも午前のクラス担任と各学生とが個別に面談し、その間の学習ぶりを振り返り、新たな課題を設定するなどした。

このような教師と学生の個人面談の機会をその後も各学期末に設けた。2 学期末と 3 学期末の面談はそれぞれ午前のクラス担任が行い、4 学期末つまり卒業時は 1 学期と同じ教師が同じ学生と面談し年間を総括した。

クラスは学期ごとに午前・午後とも必要性を考慮した上で可能な限り編成替えをし、新鮮な気持ちで学習に臨める雰囲気維持を図った。

7-2 漢字プログラム

常用漢字習得のための自律学習プログラムである。教材として本センター編集発行の市販教材『*Kanji in Context*』『*Kanji in Context Work Book vol. 1・2*』の改訂新版(ジャパントイムズ社刊 2013年)を用いる。これは漢字を単独ではなく、熟語や例文と共に学習できる内容構成となっている。学生は常用漢字すべてを卒業までに習得できるよう、毎日教材を独習し、授業以外の時間にクイズ 156 回を受けることが奨励されている。さらに漢字学習を促すため、Web アプリケーション「WebKIC」が作成されており、学生は自分の進度に合わせて、漢字習熟度を確認する問題作成ができる。また、これを利用して「KIC 統一試験」も実施している。

統一試験は、漢字・漢語の読み方や意味などを書かせる問題 50 問を全学生が受け、点数が 8 割未満の場合は再試験を受けなければならない。今年度は、毎学期 1～2 回、計 7 回実施した。この統一試験により、漢字学習が習慣化し、センター修了時には、54 名中 40 名が全クイズを終えていた。また、漢字学習に興味を持つようになり、漢字能力検定試験を受験する学生もいた。

7-3 講演会、校外学習、各種の企画や催し

全学生を対象とする講演会を 4 回 (11/12, 1/18, 2/2, 5/11) そして全学生が参加する校外学習を 1 回 (10/5) 開催した。また、選択必修コース授業の一環としてコースで独自に実地見学におもむくなど様々な学習機会を設けた。これら各種の催しを実施順に本稿末の資料に一覧としてまとめた。この表には、本センターが主催した行事をはじめ、相手方の団体から招待を受けて本センターが仲介し学生に参加を奨励した催事など、大小とりまぜて記載した。

以上の催し以外に、希望学生を対象とした課外活動「書道」「古筆」「くずし字クラブ」「茶道クラブ」を設けた。「書道」「古筆」のコースは書家の小林紘子氏が担当した。「書道」は年間を通じて火曜 15 時 15 分～16 時 45 分に実施し、「古筆」は後期のみ書道終了後に実施した。「書道」のコースは、書の心得や筆の運び方などの基本から伝授し、最終的には自作の落款付き作品を仕上げ、掛け軸に表装したものを卒業発表会場に展示した。「古筆」は手書きの古典文献を理解するのに欠かせない、くずし字の読解練習を段階的に進めた。

「くずし字クラブ」は後期に週 1 回 60 分の個別授業を行った。初学者には変体仮名の導入を目的に「以呂波」および頻出漢字 50 字の字形を指南した。技量と興味に応じて、江戸の黄表紙の中から物語展開に工夫が凝らされている作品を選び、くずし字に慣れることを目的に読み進めた。本年度で 3 回目の試みである。

「茶道クラブ」は初心者向けの裏千家学校茶道で、初めての試みとして 4 学期に設けた。真・行・草の札に始まり、畳の歩き方、床の拝見の仕方、割り稽古と進み、点前の習得を

目指す。また、茶席では、茶道に関連した軸、花、茶碗、歴史などについて話した。

8 卒業発表

卒業発表会は10か月間にわたる学習を締めくくる催しである。全学生は、来賓と全教職員学生の前で、質疑応答を含め1人15分の持ち時間内で、やや改まった形式の発表をした。今年度は全員個人発表であった。

4学期の午後の授業がプロジェクトワークあるいは個別指導の学生は、その時間内に卒業発表の準備を進めた。日本語N1クラスの学生はミニ発表会(2・3学期「統合日本語」)などで話した内容を洗練させるなどして卒業発表に仕上げた。N1クラスの各学生には1人2時間分、原稿のチェックと発表の予行演習を個別指導する教員を割り当てた。

本センターのウェブサイト「卒業発表会内容紹介」ページでは過去の年度も含め、題目と要旨を公開しているので参照されたい。http://www.iucjapan.org/html/presentations_j.html

9 おわりに

本年度は学生数が当初56名で、クラスサイズがやや大きくなったが、学習意識が高く、意欲的に取り組む学生がほとんどだった。

また、プログラムの面では、漢字テキスト『Kanji in Context』『Kanji in Context ワークブック1・2』の改訂と、それに基づく漢字プログラム、アプリケーションの作成、学生全員への漢字統一テストの実施で漢字学習をさらに充実させることができた。そして、このような手段で漢字学習の進捗状況を確認することで、例年より到達度が上がったことが確認できた。漢字プログラムに関してはこれからも改良を重ねていきたい。

なお、次年度の入学者からスクリーニングテストが改訂される。文法構造的知識を重視するものから、読解・聴解スキルを重視するものへの変更だが、これにより入学時の学生の総合的日本語能力に質的変化があるかどうか注意深く見ていく必要があるだろう。

(おおたけ ひろこ/本センター言語課程主任)

【資料】2015-16年度 通常授業以外の各種イベント情報

2015年

- 9月13日(日) 国立能楽堂 能・狂言
9月14日(月) 防災説明会 避難訓練
9月18日(金) 入学歓迎親睦会
10月4日(日) 横浜かもんやま能 能・狂言
10月5日(月) 校外学習 ロータリークラブ本牧主催
三溪園にて茶道・浮世絵体験
10月9日(金) みなとみらい21カモメスクールイベント 学生との交流会
10月20日(火) アメリカ大使館首席公使 Jason P. Hyland 氏主催
センター関係者懇親会
10月30日(金) 横浜市立大学「浜大祭」学内ツアー
11月8日(日) 国立能楽堂金春流 能・狂言
11月8日(日) 横浜能楽堂 能・狂言
11月12日(木) 講演会「最初の日本人女性留学生 大山捨松」
日米協会理事久野明子氏
11月12日(木) ACCJ説明会 Governor Arthur Mitchell 氏
Executive Director of the ACCJ Laura Younger 氏
11月27日(金) アオハタジャム 試食会
12月4日(金) 文楽鑑賞教室 国立劇場
12月4日(金) 国会見学
12月10日(木) IUC 1997卒 Carl Pizer 氏 就職ガイダンス
12月11日(金) YOKE 地球市民講座 IUC 紹介と交流会
12月13日(日) 横浜能楽堂 能・狂言
12月16日(水) 鶴岡八幡宮 「御神楽」
12月17日(木) 米国国務省研修所 FSI
Gary G. Oba 氏 Brooke Spelman 氏 Samanthe Eulette 氏 交流会
12月22日(火) 日産自動車工場見学

2016年

- 1月16日(土) 横浜能楽堂 能・狂言
1月17日(日) 国立能楽堂 能・狂言
1月18日(月) 講演会「江戸の女性史」中野節子氏 元金沢大学教授 日本近世史
1月19日(土) 産学国際研修 国際シンポジウム

- 1月 21日 (木) IUC 2010 卒 Aaron Sheridan 氏 就職ガイダンス 東京アカデミックス
- 1月 22日 (金) IUC 2009 卒 Benjamin Boas 氏 懇談会
- 2月 2日 (火) IUC 1992 卒 Anne McDonald 氏 日本財団講演会
「日本列島万華鏡 ～生物多様性をフィールドから考える」
- 2月 3日 (水) IUC 2015 卒 Jennifer Christ 氏 マブチモーターズ 会社説明会
- 2月 3日 (水) 厳島神社(関内)「節分祭」
- 2月 5日 (金) フォースバレーコンシェルジュ 渡辺理香氏 就職説明会
- 2月 8日 (月) セブテニーホールディングス 人事部江崎修平氏 会社説明会
- 2月 13日 (土) 民謡の会
- 2月 19日 (金) コンサルティング会社 Langley Esquire J. Allen Parker 氏 就職説明会
- 2月 23日 (火) IUC 2012 卒 Benjamin Turk 氏 アーバンコネクションズ勤務
Larry Greenberg 氏 同社 CEO 会社説明会
- 2月 27日 (土) 横浜市鶴見(ゴミ焼却)工場見学会
- 2月 27日 (土) 明治大学特別講義 日米をまたぐストーリー漫画の起源
- 3月 4日 (金) 研究者ネットワーク 若手研究者談話会
明治大学伊勢弘志助教主催
- 3月 11日 (金) 日米協会 若手ビジネスマンとの懇親会
- 3月 12日 (土) 明治大学 研究ネットワーク主催 書評会「異貌の古事記」
- 3月 13日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 3月 13日 (日) 鶴岡八幡宮講演会「十二単」
- 4月 3日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 4月 26日 (火) 明治大学伊勢弘志助教主催 明治大学にて学生交流会
- 5月 5日 (木) 鶴岡八幡宮「菖蒲祭・舞楽奉納」
- 5月 9日 (月) ～20日 (金) 日本大学大学院社会科学系授業聴講
- 5月 11日 (水) 国際交流基金本部訪問
- 5月 11日 (水) 日本財団講演会 IUC 1982 卒 Charles Horioka 氏
「日本人は特殊か? 国際比較で見る日本の貯蓄率と遺産動機」
- 5月 19日 (木) IUC 2008 卒 Benny Rubin 氏 Fusion Systems Japan 勤務 懇談会
- 5月 20日 (金) ～22日 (日) 下田市主催「黒船祭り」
- 5月 21日 (土) ～22日 (日) 長野県中野市 国際交流学生招待
- 6月 2日 (木) ビジネス日本語能力テスト
- 6月 5日 (日) 国立能楽堂 能・狂言
- 6月 7日 (火) ～8日 (水) 卒業発表会
- 6月 10日 (金) 卒業式、卒業祝賀会
- 6月 11日 (土) 鶴岡八幡宮「螢放生祭」
- 6月 17日 (金) 国立劇場 歌舞伎鑑賞教室